

I. 活動成果及び今後の課題

(注) 各項目の記述には必要な分量のスペースを使ってください。

(1) 活動成果

本演奏会では、2020年3月1日、北千住アートセンターBUoYの地下スペースにて、満員の観客（計118人、うち招待客15人）を前に、グロボカール独奏曲3作品、《Échanges》、《Res/as/ex/inspirer》、《Voix Instrumentalisée》（いずれも1973）と、日本初演のシアターピース《変わらない一日 Un jour comme un autre》（1975）の演奏を行った（参考資料2）。

アンケートでは、80%以上が「とても満足」と回答し、「とても満足」と「やや満足」の合計が95%を超えた。本企画は非常に好感を持って受け入れられたと言つていいだろう。その内容を見ると（資料参照1）、上演時間60分を超える《変わらない一日》が印象深かったとされ（質問3）、現在日本の抱える社会的問題とこの作品を結び付けて考えた感想も少なくなかった（質問4）。不気味な会場と凄惨な内容を持つプログラミングもマッチしていたとする感想も多く見られた（同）。演奏会場に、ホールではなく、廃墟然とした演劇会場を選んだのは、普段クラシックや現代音楽に慣れ親しんでいる人々にはショックがあったようである。また、「音楽現代」（芸術現代社）と「Mercure des Arts」（Web媒体）の演奏会評にも取り上げられ、会場、演出、企画において、概ね好評であった（参考資料3, 4）。以上のことから、本企画はグロボカール作品のアクチュアリティを、多数の観客、そして評論家に、実演を通して示すことができたと言えるだろう。またグロボカール作品は非常に好感を持って（あるいは見るべきものとして）受け入れられたことは非常に大きい。本企画が、120名の観客に対して、社会問題を考える一助となり、また明確な社会性を持った演奏会として批評家から評価されたことから、グロボカール作品の演奏会として成功したと言えるのではないだろうか。

(2) 今後の課題

主催者（坂本）が運営を務めたが、練習会場の予約、楽譜準備などの演奏会を回す負担があまりにも大きすぎたので、次回このように大きな演奏会をする時は、予算をつけて運営業務をアウトソーシングすべきであると強く感じた。企画と演奏の準備に専念する時間を多く持つことによって、演奏会自体の質をより良くする余地があるようと思われる。

予想を大きく超える観客に恵まれたのにも関わらず収益化しなかったことは大きな反省点である。とは言え、出費は全て不可欠であったように思われ、またチケットの値段も適切だった（通例に倣った値段だったので、自転的な活動のために、どのように黒字化するのかは今後の大きな課題である。

後半で日本初演した《変わらない一日》は、アンケートでも指摘された通り、現代音楽の文脈ではなく、劇作品として公演することが可能なように思われる。TpamやFestival tokyoといった、演劇の文脈などでの再演も視野に入れて今後活動していきたい。自分の活動分野（クラシックや現代音楽）から飛び出て、様々な人に作品を見て／聞いてもらえればと思う。

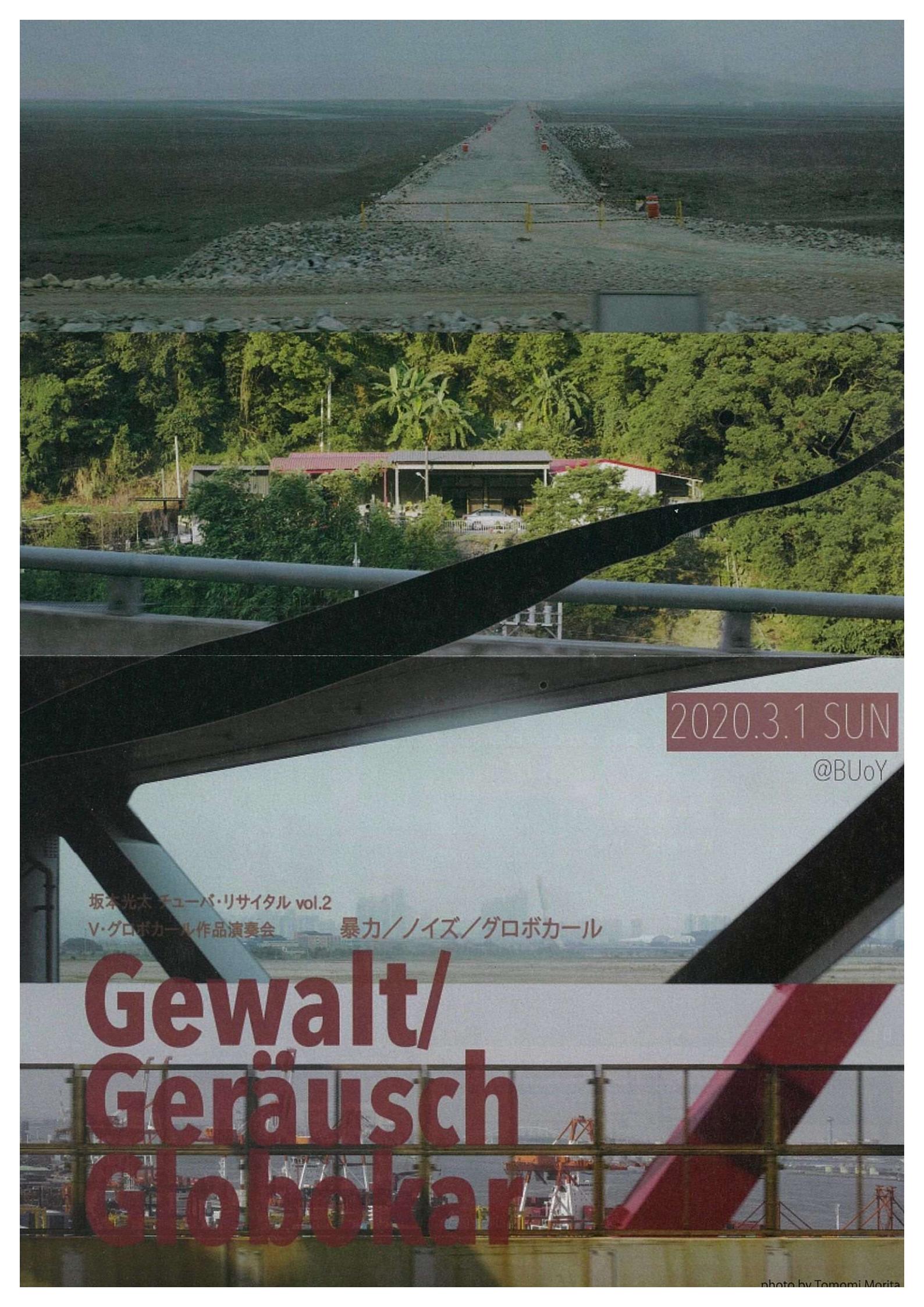
今後も、ひとまずは自分の演奏家／芸術家としての評価を確かなものにするために、グロボカール作品の上演を続けていきたい。今後は《Laboratorium》（1973-85）、《Dos a dos》（1988）などのアンサンブル・ピースを、そしていずれは大規模な作品の《La tromba e mobile》（1980）を上演することができればと思う。コロナの影響で演奏会を企画することそのものが難しくなってきているが、決して諦めず、肃々と準備しながら、いつか来るであろう機会を待ちたい。

II. 支出報告 (使途、数量等を具体的に摘要欄に記入して下さい)

費 用	金 額	摘 要
(1) 会 場 費	182,600 万円	BOuY使用費 (2/29-3/1)
(2) 印 刷 製 本 費	10,740	チラシ印刷料
(3) 旅 費 交 通 費		
(4) 謝 金		出演料 (演奏) 出演 (演出、音響、照明など) 当日スタッフへの謝金
(5) その他	139,372 5,825 1,160	楽譜レンタル、リーディング、初演料 美術費、舞台制作費 ダイレクトメッセージ郵送費
合 計	592,497	

※上記に記載された支出の事実が分かる領収証のコピーを添付してください。





2020.3.1 SUN

@BUoY

坂本光太 チューバ・リサイタル vol.2

V・グロボカール作品演奏会

暴力／ノイズ／グロボカール

Gewalt/ Geräusch Globokar

坂本光太チューバリサイタルシリーズ vol.2

V・グロボカール作品演奏会

Gewalt / Geräusch / Globokar 暴力 / ノイズ / グロボカール

変わらない一日は可能か

フランスの作曲家で、演奏家のヴィンコ・グロボカール（1934-）はその多岐にわたる音楽活動をとおして、つねに同時代における音楽家の在り方について厳しく言及をしてきた。ある時は演奏の「超絶技巧性（extended technique）」を、ある時は「即興（improvisation）」の方法論というように形態はさまざまだが、彼の作品からは、普段あまり実感することのない「時代の流れ」というものを感じることができる。

本公演では初期のグロボカールのソロ作品から、日本初演のシアターピース『変わらない一日』まで、全プログラムがグロボカール作品によって構成される。「テロ」「移民」「感染」……さまざまなワードによってSNSのトレンドが高速で更新される現在、「変わらない一日」（日常）は可能だろうか。グロボカールの作品の演奏／翻訳を通して「同時代」を見つめなおす。



坂本光太 Kota Sakamoto

1990年山梨県生まれ。チューバ奏者・パフォーマー・即興演奏家。現代音楽、実験音楽、即興の領域を中心に活動。作曲家をはじめとして、サウンド・アーティスト、ダンサー、詩人、古楽奏者などの様々な分野の専門家と共にプロジェクトを手がけ、今日における表現活動を追求している。

2020年3月1日（日）

15:00 start / 14:30 open

@BUOY

TICKET 一般 ¥3,000 / 学生 ¥2,500（前売り）

当日受付は+¥500になります。

PROGRAM

Échanges (1973)

Res/As/Ex/Ins-pirer (1973)

Voix Instrumentalisée (1973)

Un jour comme un autre 変わらない一日 (1975) 日本初演

PLAYER

坂本光太（チューバ、他）／馬場武蔵（指揮）／

根本真澄（ソプラノ）／佐野幹仁（打楽器）／

Alvaro Zegers（クラリネット）／

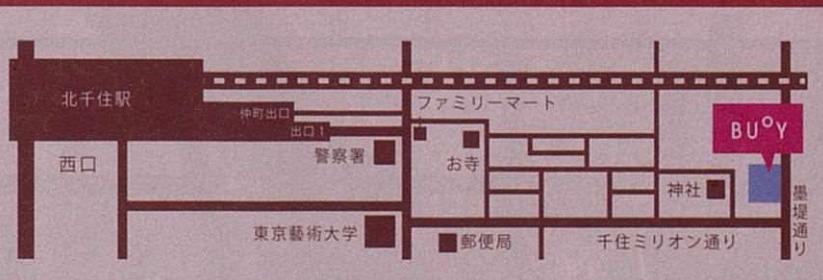
下島万乃（チェロ）／水野翔子（コントラバス）

STUFF

小野龍一（演出）／増田義基（音響）／植村真（照明）／山下直弥（制作）

ACCESS

BUOY (東京都足立区千住仲町49-11)



予約／お問い合わせ

QRコードからのお申し込み、もしくは下記のアドレスに
【お名前、一般／学生、予約席数】を明記の上、お送りください。



sakamoto.tuba.concert@gmail.com